

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒害性	使用時期(回数)	使用回数	灰色かび病	斑点病	さび病	芽腐病	根腐病	苗立枯病	立枯病	うどんこ病	べと病	炭疽病	黒星病
タチガレン液	32		*a	3							◎				
トップジンM水㊦	1		-	5				◎							
バシタック水75	7		*b	8			◎								
リゾレックス水	14		*c	5				◎	®						
ポリオキシシナール乳	19		*b	8		◎									
ポリオキシシナール溶	19		*b	8		◎									
エムダイファー水	M3		*b	8	◎		◎						◎	◎	
ジマンダイセン水	M3		-	8	◎		◎						◎	◎	◎
モレストアン水	M10		*b	10								◎			

㊦：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

*a: 定植時及び活着後

*b: 発病初期

*c: 生育期

®: リゾクトニア属菌による病害

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	タ バ コ ガ	オ オ タ バ コ ガ	ヨ ト ウ ム シ 類	ク ロ ウ リ ハ ム シ	ハ ダ ニ 類	セ ン チ ユ ウ 類
ゼンターリ顆水	11A		*a	-						ハ			
オルトラン水	1B		*a	5			◎						
オルトラン粒	1B		*a	5	◎	◎	◎			◎			
スミチオン乳	1B		-	6	◎						◎		
ネマトリンエース粒	1B		*e	1									ク
ペンタック水	2A		-	-								施	
アグロスリン乳	3A	劇	*a	6		◎				◎			
アディオんFL	3A		-	6		◎							
テルスターFL	3A	劇	-	3								◎	
トレボン乳	3A		*a	6		◎							
マブリック水20	3A	劇	*a	2						ヨ		◎	
アニキ乳	6		*a	6					◎				
カスケード乳	15		*a	3				◎					
ダニカット乳20	19		*d	2								◎	
カネマイトFL	20B		-	1								◎	
サンマイトFL	21A	劇	-	2								◎	
ピラニカEW	21A	劇	*a	1								◎	
ウララ50D F	29		*a	6		モ							
モレスタン水	UN		*a	10								◎	

*a:発生初期

*c:定植前

*d:蕾の開裂前

*e:植付前

ク:クローバーシストセンチュウ

ハ:ハスモンヨトウ

モ:モモアカアブラムシ

ヨ:ヨトウムシ

施:施設栽培

カーネーション

カーネーション (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎凋細菌病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
立枯細菌病	植付前	・挿芽は健全株からとる。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
さび病	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 バシタック水和剤75 500～1000倍	
立枯病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 次の薬剤のいずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤* バスアミド微粒剤* いずれも20～30kg/10a	*花き類・観葉植物での登録
	定植時および活着後	・次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤 500倍 3L/m ²	
斑点病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL)* 1000倍 ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍	*花き類・観葉植物での登録
うどんこ病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 パンチョT F 顆粒水和剤●* 2000倍 ポリオキシシンAL水溶剤* 2500倍 モレスタン水和剤△ 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △モレスタンは葉害を生じるおそれがあるので注意する。 *花き類・観葉植物での登録
アザミウマ類	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤 1000倍	高温、乾燥期に発生が多い。
アブラムシ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 アディオンフロアブル 1500倍 ダントツ粒剤(株元散布)* 6kg/10a 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	アブラムシ類はウイルス病を媒介するので、早めに防除する。 *花き類・観葉植物での登録
シロイチモジヨトウ	生育期	1. 施設の側面や妻面には防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。 2. 次の薬剤を散布する。 ロムダンフロアブル* 1000倍	*花き類・観葉植物での登録

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
オオタバコガ	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 アフーム乳剤* 1000倍	若齢幼虫のうちに防除する。 *花き類・観葉植物での登録
ハダニ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 ピラニカEW 1000～2000倍 モレスタン水和剤 1000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤(くん煙剤の項参照)および次の薬剤を使用する。 ペンタック水和剤 1000～1500倍	ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をさけ、ローテーション散布を行う。 発生初期に防除を徹底して行う。葉裏によくかけるようにする。 *花き類・観葉植物での登録